都留高ニュース

発行所
山梨県立
都留高等学校
大月市
大月２丁目11-20
編集
都留高校新聞同好会

**取材・広告
希望の方は
新聞同好会
（木内）まで**

いつでも災害に対する備えをしよう！

今年の夏は行動制限のない夏休みとなりました。みなさんはどう過ごされましたか？この夏も猛暑に加え、台風による新幹線運休など様々な被害が起こってしまいました。

皆さん備えは大丈夫？

９月１日は防災の日となります。それは１９２３年９月１日、関東大震災が起き、未曽有の被害がでたところから制定されました。今年はそれからちょうど１００年となります。改めて防災や減災についてついて考えましょう。

左図は都留高校周辺のハザードマップ（大月市役所のホームページより）。土砂災害時に危険度が分かる。日頃から自宅周辺のハザードマップを確認しておこう。

商店街の取り組みは

大月商店街のお店ではどんな防災の取り組みをしているのか、お聞きしました。

今回は、都留高校から近いお店について、少し聞いてみました。まず、文具、事務用品を売っている、**誠実堂**では消火器を設置しています。誠実堂は、お店を借りているらしく、自分で好きなように防災の取り組みはできないらしいのですが、消火器を置いているそうです。お店を営業する際には、火災に備える必要があるそうです。次は、いちご大福の評判がいい和菓子などを取り扱っている**小松屋製菓舗**では、火災報知器を設置しています。やはり、特にご老人などは消火器だと重くていざと言う時に使えなかったりするのでとても大事な対策ですよね。

大月商店街では、火災に良く備えているようです。みなさんは、ご自宅に消火器などを設置していますか。非常食や水などは用意している家も多いでしょうが、火災にもきちんと対策している家は少ないのではないでしょうか。この機会にぜひ、ご自宅にどんな対策が必要か考えてみてはいかがでしょうか。（朝）

大月商店街とは

今回は、その大月商店街についても紹介をしていきたいと思います。

大月商店街協同組合、という団体があり、現在の加盟店はインテリア・寝具を取り扱っているおおつき堂、文具、事務用品を担当している誠実堂などです。また、７月１日（土）～８月５日（土）にサマーセールというものを開催していたようです。先程紹介した誠実堂などはもちろん、かどや食堂や、イトウ理美容室、カメラのいとうなど様々な店がこのサマーセールに参加していたようです。

大月商店街協同組合では、特有のｍカードというものを発行していて、毎月10日に各店舗でお得なサービスを実施しており、さらにポイントが３倍になっているとのことです。100円お買い上げごとに１ポイント進呈され、貯まったポイントで買い物ができるそうです。都留高校からは近いため、帰りなどにも少し寄ることが出来ます。

みなさんも、大月商店街に立ち寄ってみてはいかがでしょうか。（朝）

シリーズ－都留高新聞の歴史⑩

60年前の先生と生徒の関係は・・

昭和37年（１９６２）７月２日の都留高新聞のトップ記事は「先生とは？私達は先生に何を求めているのだろう　生徒とは？新聞部アンケートより」の見出しで始まる。

「アンケートを整理した結果次のようにまとめる」

「一、生徒が先生に望む事
二、先生との座談会を望むか
三、先生に対して人間性、学習指導のどちらを望むか
四、挨拶について」アンケート調査を行っている。

気になる内容については多岐にわたるが抜粋を掲載したい。

一の結果について「先生と生徒があまりにもかけ離れていて何事につけても相談しにくい」「一部の先生方にお願いしたいが、御自分の感情をあまり出さないで欲しい」「生徒が聞いていて恥ずかしくなる様なことを平気で授業中話す先生がいるがやめて欲しい」

二について、「グラフに示した通りの数字が出ている」とあるが残念ながらグラフはみあたらない。「できるだけ時間を見出し大いに座談会が開かれることを期待する。」とまとめていることから多数をしめたと思われる。

都留高新聞
先生とは？
私達は先生に何を求めているんだろう
生徒とは？　新聞部アンケートより
血液型検査行わる
先生に言いたい事
生徒に答える
大月牛乳
宮川写真館
小俣洋品店
日進堂
遠山時計店
志村靴店

三について「人間性が多く五十八パーセントをしめている」「人間的な勉強の指導をお願いしたいと思う」「全校生徒の気持ちとして人間的な事に関する勉強も立派な勉強であるから指導をお願いしたい」とある。

四について、先生が挨拶を返してくれないのは「とてもいやな感じで次には挨拶しないで通り過ぎようと思う」「封建的主従関係にあるような雰囲気を感じる。反省してもらいたい」と手厳しい内容であった。

自学進取

この夏、いろいろな所でこれまでの高校で関わった卒業生と再会した。高校野球の応援会場で、新宿駅で、ホームセンターで。「先生変わってないですね。」は昔から老け顔だったからか。少し恥ずかしさも感じるが教師冥利に尽きる出来事の一つだろう。さて、全国ニュースでも取り上げられるが、教員が足りないという。若者たちには教員の魅力が感じられないのだろうか。確かに、同じ年代の生徒だからといって、同一な感情をもっているわけではないので、一人一人の声を聞き分けるのは難しい。２０２１年本屋大賞になった町田そのこ『52ヘルツのクジラたち』（中公文庫）を読んだ。52ヘルツのクジラとは同じクジラの仲間たちにも聞こえない周波数で歌を歌う世界で一頭しかいないクジラで、世界で一番の孤独な存在の象徴。物語では『ムシ』と呼ばれる孤独な少年に対し、人生を家族に搾取されてきた女性『貴瑚』は言う。「わたしは、あんたの誰にも届かない52ヘルツの声を聴くよ。いつだって聴こうとするから、だからあんたの、あんたなりの言葉で話しな」。これまでその声を自分はどれくらい聞けていたのだろうか、だいぶ自信はない。しかし、そんな声を聞ける人にみなさんはなって欲しい。（顧）

夏のＳＡクラスの行事

今年度コロナウイルスが五類に移行したこともあり、茨城県にて、一泊二日の日程で１年次のＳＡキャンプが行われた。

一日目、まずは筑波大学を訪問し、石田先生によるエネルギーに関する講義を受けたり、事前学習を生かして現役の大学院生とディスカッションを行ったりした。その後、高エネルギー加速器研究機構（KEK）、物質材料研究機構（NIMS）を訪れ、放射線を用いた実験装置の迫力や、物質がどう生まれ、強化されていくのかを学んだ。ホテル到着後も、小惑星探査機「はやぶさ」の姿を探したり、その日一日を振り返るミーティングを行ったりと充実した時間を過ごした。二日目は二グループに分かれ、Ａグループは鹿島製油所（ENEOS）、鹿島風力発電所、神の池バイオマス発電所を、Ｂグループは原子力科学研究所、東海テラパーク、常陸那珂火力発電所をそれぞれ見学した。二日目は一日目よりさらに各見学場所での質問の数が増え、自ら学ぼうとする積極的な姿勢が見られた。そのために都留高校到着が一時間ほど遅れたが、その分有意義な時間になった。

今回のＳＡキャンプは二日間通じてエネルギーについての研修が行われ、未来を担う私たちがどのようにエネルギーを選択していくかを考えるきっかけになった。これからの未来を創るのは私たちの世代である。難しいことではあるが、思考を止めないことが大切なのかもしれないと思った研修だった。（中）

また、２年次のＳＡキャンプは１年次と同日、「八ヶ岳少年自然の家」にて薪を使った飯盒炊飯でのカレー作りやテントでの寝袋での寝泊りなど、自然の中で集団での共同生活を体験した。二日目には諏訪東京理科大での見学も行われた。（木）

２年次ＳＡキャンプで薪に火を付けるのに苦戦中

今注目の人　加藤諄也さん

今回は夏の高校野球県予選でホームランを３本打った３年５組の加藤諄也さんにお話をお聞きしました。

Q１、県大会でホームランを打った時の感想を教えてください。

ーチームも試合の中で苦しい状況だったので、自分も打たないといけないという気持ちがある中で、打つことができたのでうれしかったです。

Q２、ホームランを打つためにどのような練習を行ってきたか教えてください。

ー家に帰ってからの素振りや、体づくりをチーム全体の課題としてやっていたので体づくりをしました。

Q３、最後に野球部の後輩へメッセージをお願いします。

ー大会を終えて、高校三年間はあっという間だったなと思うので終わったときに後悔が残らないように、全員が最後まで全力でやり抜いてほしいです！（白）

北海道インターハイに出場

この夏、水泳部で北海道で行われたインターハイに出場した３年１組小嶋大蒼さんにお話をお聞きしました。

北海道インハイに出場した小嶋大蒼さん

Q、インターハイのどの種目で出場しましたか？

ー200メートル個人メドレーに出場しました。

Q、インターハイに出場してみての感想を教えてください。

ー全国にはまだ速い選手が沢山いて、自分のまだまだだなと感じる部分と、速い選手達の泳ぎを見て学ぶものが多かったです。

Q、水泳部の後輩に向けて一言お願いします。

ー努力は報われるので練習頑張ってください。（濱）

都留高校オープンスクールが開催

８月26日、都留高校でオープンスクールが開かれました。２５０名以上の中学生が参加し、体験授業を受けたり、在校生の話を聞いたり、部活動見学などを体験しました。オープンスクールに参加していた中学生たちにインタビューしました。

1、この学校に最初どのような印象を受けましたか？

都留一中生徒：ここにいる人たちも受験をしっかりやってきたため決まりごとをしっかり守る人が多いとと思いました。

上野原西中生徒：伝統が長い間伝わってきたため校則や授業中など色々厳しそうだと思いました。

上野原中生徒：昔からある学校なので慣れていることが多いと思ったので親しみやすい所だと思いました。

2、都留高校に体験に来てどうでしたか？

都留一中生徒：体験授業を受けて普段からどのように高校生が授業をしているのか知ることができ、楽しく授業を受けることができました。

上野原西中生徒：体験授業でプログラミングのことについて学びました。話を聞いていてとてもわかりやすく学ぶことができました。

上野原中生徒：勉強や部活の話を聞いて役に立ちそうなことが沢山あったのでこの先のことに生かしていきたいです。（桜）

夏の思い出

「総文祭に参加して」

新聞同好会副会長　澤田　凜

総文祭新聞部門では、各都道府県の代表の新聞を見たり、他県の新聞部員の方々と協力しながら班ごと交流新聞を作成しました。

会場に展示されていた全国の都道府県から選ばれた高校の新聞は、それぞれの高校で特徴的な見出しやレイアウトでこだわり抜かれた興味深い新聞でした。１日目の班員との交流では全員が初対面だったこともありすごくドキドキした雰囲気だったことを覚えています。滋賀県虎姫高等学校の鈴木真由美先生の話では新聞について学ぶことが多く特に、「題字が大事」「新聞は足で書く」という言葉が印象に残っています。

交流新聞作りでは、鹿児島の歴史、文化、自然、産業等のテーマのもと５、６人の班に分かれて、取材活動を行いました。私の班は日置市に行って陶芸について取材しました。陶芸の里「美山」の探訪を行い、鹿児島県の伝統工芸品である薩摩焼の代表的な窯元、沈壽官窯の見学をしました。この半日で鹿児島の伝統工芸品の素晴らしい魅力について知ることができました。

新聞作りの作業では班員全員が違う都県出身であり、私はあまり新聞についての経験や知識も浅かったので、コミュニケーションが上手く取れるのか、時間内に作り終える事ができるかなど不安を感じていました。しかし、鹿児島県出身の人や、全国入賞をしている高校の部員の人たちに引っ張って貰いながら、取材で得た情報をもとに協力して新聞を作成しました。２人１組で役割を分担しながらそれぞれが得意な作業を行い工夫して進めました。普段学校で作っているような新聞とは違い、全てが手書きで色合いや見出し、レイアウトなどそれぞれの高校の新聞の魅力が詰まった１枚は私の思い出の新聞となりました。全国から集まった高校生で新聞を作成した中で新たな新聞に対する知識や熱量を感じました。

この総文祭に参加して新聞の良さ、そして魅力を学べました。その魅力を１人でも多くの人に知ってもらいより多くの人に新聞を読んでもらいたい。だからこそ後輩には、私が今回得た経験や知識を後輩に伝え、新聞を読むきっかけとなるような都留高ニュースを作っていって欲しいです。